

忠勇阿佐倉日記

第二編
四

特
3
遠
883
9



門へ遠 13
883
卷 9



忠勇阿佐倉日記第二編卷之四

忠勇阿佐倉日記第二編卷之四

東都

松亭金水編次

阿佐倉の民課役小苦む

花井の先見子小遺命以

文明元己丑霜月上旬の頃多うがもく用途不足多うとて多分の課役と出
べし。筒のやく如縣へ呼て嚴重小命せらる。妻な先以下郵への社屋へ更
果とて。文月の頃の五千金も公易く六綱ハ松と進近の多うりひ念と初て安振
小妻子と世を送るも偏小領自の賜も。報恩謝儀の多う時とと思ふ
く公と勵き。僅五日小整へて。献ト。と能工と思ひとて。半半の
や。ね小多分の用金這回ハ多う。綱ひ。以後優恕と願ふの依りあり

明治三十二年
十月八日
編次

公と評議して彼知縣が門前より會所へ於てその領書の類を認めて認める要らぬ
門及び五人ありて之を差出さず畦里へて之を鳩と認て這田へ更ふ才
覺の達より免と預ふの扶一向謂きなり。汝らるる主の恩を承けて業
を樂く眷屬を安らふ者ありて之を。然るに非常の心も隙を命せざるも
奉つる。其の徳を報する。況や僅の金銀を出さるらく。誰れも其
係を才覚達より何れ返答争ふ実と做して免さるや。吾知縣の檢ふありて
て年來汝ら分限大畧小初るも。若強て締むとあり。何の村も何れ
と此方の帳小記あり。各ありて以て土庫の底まで探して出させん。若然ん
ば汝ら迷惑をえんと。この優惑を以て誰れも何れ一辨し。負する仁義の
程を厚く云ぬ水呑戸あり。糶るとも貯へる農人們。吾も食をて個達むせと。

かの願書と地かへせ。其の書なかり。拾ひ把り。以て後ありと。任令一部小一五人僅
所持する者ありとも。多寡の知まらざる農民も。その家産の在る限。其の
とも。願書を居。之の用あり。充らば。此方へ父母眷屬。離散ふ。及公
くの難。偏し。賢と巡ら。宿免の計。し。願書つ。とり。け。不。飛。田
臨平。朝。出。と。安。な。歩。口。賢。農工商。と。位。を。武士。の上。あり。ま。く。け。と。判。せ
射る。その。度。大。多。く。令。限。の。権。あり。方。あり。在。り。然。る。と。推。し。ひ。以。終。り。て。出。さ。し。と
做。さ。る。も。身。二。冥。裡。不。乖。け。新。為。さ。る。汝。が。能。事。有。る。老。も。ま。ま。ま。不。是。る。
千葉の忠義を告の普通の莊屋あり。弘福禪寺小幼學を傳えり。其の
知事とを。祇園精舎の初と安し。祇園太子が権柄の地味小務も。冥地と
く。太子。小。不。辨。さ。る。又。恨。大。地。不。布。隣。か。の。黄金。を。以。て。買。と。す。と。太子。の

須達長者の倉庫を因らして大衆に黄金を貸して祇陀園の七十頃へ
 布満す。大子の長者が希特を撰て黄金をくらひ地を興えんとて長者
 へ首を揮り大子小戯言あるを以て強ふ不周て黄金を収め長者小の地を
 興えしより。後會をこ不達多す。彼ふあの上より於波斯匿王の太子分れ
 徳民の上にあまこと。須達長者の及及を以てさる農人商人と隨ちむり
 る富の王公貴人の上にあまこと。さるりて農民の力及をさるとさるりて
 許容介縁。鬼ふ初ふ由文との人と集會を商後會。余せの黄金を調
 達せし吾們の友の縁は。さるりて許容介縁の及及を以てさるりて
 思惟をさるりて。故多未歴を引出て王公を以て富に商人大富に
 以て。彼と以て。結を。許容介縁の及及を以てさるりて。

後會。有吾の回答を仕つんと。さるりて。引取て。當り。集會。名。何。せ
 と。商後會。その。業。吾。由。出。来。や。今日。の。次第。と。妻。く。安。果。開。い。花。落。り。令。命
 の。下。ま。さ。る。あ。る。け。と。吾。們。既。小。八。の。糧。と。楯。小。の。う。い。知。縣。の。大。略。安
 知。つ。ん。を。傳。の。三。十。箇。村。の。例。年。より。多。分。の。租。税。を。盡。ら。さ。し。ま。と。梓。も
 やら。を。納。め。さ。る。の。間。も。く。課。税。の。用。金。争。調。を。盡。し。け。ん。也。是。苦。の。こ。の。名。們
 の。以。後。ま。ま。を。も。く。花。落。り。令。命。と。さ。る。り。て。知。縣。の。治。由。り。て
 再。度。の。評。議。も。及。む。細。ひ。を。た。青。と。り。て。以。免。と。預。人。他。の。あ。り。と。這。回。在。下
 各。小。根。下。を。預。書。と。出。さ。し。と。既。小。委。ま。り。漏。り。の。書。年。を。の。外。へ。喘。を。を。あ。り
 へ。勝。間。田。の。重。三。拜。人。を。小。會。敷。と。今日。の。い。さ。さ。際。ま。あ。り。て。さ。る。り。の。外。小
 遅。刻。の。ぬ。今。も。彼。也。を。害。を。を。受。り。不。花。落。り。ま。く。用。金。と。充。ら。さ。し。ま。

安さ小後三入る次才あり。ゆふ山津と致さま。一。骨末あり。以程小居
 合走人。口せ抄へ在。正。具小信り。箇様。この故。り。之。引。て。物。儀。不。統
 さま。ま。と。勝。玉。の。ま。る。む。あ。り。く。小。殺。さ。り。く。し。大。金。を。調。ふ。手。足。更。あ。り。こ。小
 於。て。書。吾。ぬ。今。ま。り。山。免。の。札。書。と。出。さ。ん。と。せ。り。さ。り。足。下。の。若。物。持。あ
 と。誰。も。ぬ。り。の。ひ。け。ま。は。土。庫。の。底。ま。で。探。し。る。云。と。知。ん。と。言。ま。り。ま。の。一。番。小
 足。下。の。若。物。持。あ。り。と。若。物。の。あ。る。あ。る。が。吾。信。不。伏。あ。り。然。ま。ま。ま。の。ま。を。こ。と
 今。二。回。収。め。て。美。を。塞。ぐ。べ。と。い。ふ。と。又。重。三。郎。小。首。と。願。け。り。と。拱。さ。り。を。書。め。り
 一。が。一。人。点。取。り。ゆ。も。父。の。世。小。あ。る。願。ひ。の。ま。り。抄。へ。あ。り。け。り。と。在。下。代。小。あ。り。て。ま。の
 畜。性。不。疎。け。り。六。年。小。耗。り。て。ぬ。れ。今。の。ま。り。多。く。豪。富。の。ひ。ま。ら。り。と。恥。り。と。
 必。人。を。り。の。形。を。産。ま。り。と。小。信。り。て。あ。り。知。縣。小。然。り。て。く。白。眼。ま。り。て。網。裏。に

魚小舟をくまて。假令信の東西小もせよ。把さるる。六通是入。湖あり。這回花井
 子象の両賢見不化。小若くむ。八々へ糧を履する人。を。と。て。在。下。頼。ま。不。職。性。不
 信。走。る。信。あ。り。て。下。り。と。ま。ま。不。亞。べ。ま。ま。と。做。さん。と。必。ひ。さ。れ。る。あ。る。ま。ま。不
 持の金銀も限り。と。集むる。あ。る。大。方。の。千。両。許。小。あ。り。ぬ。下。と。支。を。抄。ら。ば。知
 縣へ。抄。り。佐。倉。の。郷。の。課。没。り。と。云。ふ。が。そ。ま。ま。と。律。條。あ。る。と。い。ひ。の。り。の
 這回も。五千兩の命令あり。然。ま。り。ま。の。許。ま。ま。と。ぬ。れ。ぬ。也。然。ま。ま。と。の。信。り。不
 出。さ。り。山。免。を。懸。い。ん。と。う。の。信。り。あ。る。あ。る。ま。ま。と。忠。義。を。ぬ。れ。ぬ。後。の。信。り。不
 思ひ。ぬ。と。同。ま。り。と。兩。個。の。亮。示。と。一。の。後。最。終。一。固。ま。り。願。主。の。書。理。疑。疑。を
 且。ま。ま。と。知。縣。が。針。ら。ひ。ぬ。那。及。の。之。あ。る。ま。ま。と。の。知。り。ま。ま。と。昔。江。赤。田。の。折。任
 下。上。小。福。下。の。折。磨。の。看。り。か。ら。ば。其。の。虚。不。ま。ま。と。の。富。以。校。ま。り

まい遮ては免し顔も何れも罰と云んや程も測り知れぬ力のみぞ。
 いふ小吏等が怖しとて吾們支所の支死を頼り大暗地の家産のあり云ふ
 知るまじ。責候下人との狭くを初る小忍びんや。ら小終く願主を蔵し
 然り覚悟をて調ねより言さんと既小心の決しとて足下慈帯を奈し
 日來の使客魂とんせぬとて姑一けと若然らんぬ在下等も令恨と云
 あらとて持物えら山林田地家化と賃入志んも四五百兩の調へ下
 合して出さんぬ不足ありとも俸の減ん然らば更よとの人おろ侍種せ
 虎次郎六七も申進し出資見等既小初の如く吾儕もまは家産を匿
 て二千兩の高小做し納めし人の宜く宜く人始めよりと也此と云公巧
 とるのみぞ。五千とのさあ然へ出れとも僅に栄ありはと口と嚇とてあや

ける。千五百の土壁があらば主勝の吾們のつ小做さん更も上より宜ひ
 半のまもど足らぬ速小受らるや否の程日昔も来なけとて牙の皮利也
 此上の実小智意小の齊力小及むぬふて詮方と吐息吻の居る
 貴なまのハ渠等と視之。吾等の家七十勝の今日小まはと是日ハ箇
 様の折磨もあむとて妻を眷屬安と暮しし小ぬぬあむハ暴小か
 那屋の針らひ草人刀秘も健も在とさけハ練め也。做しぬへと苦多
 更も力の及むぬぬ。を曾さけハ練多勝山との美女が就むらけ
 長ト。その見とさるい人由用おらるといふも。小吏等計らひぬ人
 斯も由足下等もさる若さ小初を。昔勞と守ぬるの毒さ長寿を
 加多と昔の人ハひさけん已由大底人並小死るハ箇程も同也。老



のくま。知縣へあつて頼み小才覚あつては元來美郷財多。今日不
用の器もも活代りて調へる。金高都て二千兩添へ仰の半不足らねと
も此之の絶たなき。術計りいふに由とてあるべし。執成と執成ると
各々怨小顔してかめ英令と並べり。時小苛沃飛田の友人威候と云はせ
祝中。冷失ひ扇と把す。の程候と言ふとせしとせしは言へ何と云ふ箇計
の金調へると再四三回日と延下。今不足つて僅小二箱畢竟世世上の余と茂
小まきのとあつて知縣の候る言ふと悔す。嘲弄を小知ら。然るも此
久小術計りて云ふとまは今又利害を解と日詮す。此より花邊漢候は
てあは指揮小任せん。まは此黄令の預りあは進て沙汰とあす下。といと申
嚴よりい後まは田代小難進家候と失ひかくま。辛若あつて甲斐

多のころは法く。言らると貴紳上下の差別のありといひあつ。頼りとも情を
一とも論えといふ方せられ。夫小箇計非なる。領下の下はまは身の不
幸と歎く外へり。とる湯冷削に花井妻存の悔涙小嘆ふ。の父小詮方
あつて中。此を知縣より。花邊執達しつて。六例の井六國內と作ら。董太
ゆうち候へ。その快と披えり。かづ用途不足多。や何のせんと憚らる。董
後大者。揚各何と思ふ。知れとを。阿佐倉の郷の土地といひ。殊小二十
餘箇村あり。他小倍豊饒の地多。然る小を。五千金。今僅小二千。余金
一。一兩不足ら。箇程の工農人們。日侍の夜半の調代小。是とすと云
不ふ。然る。田代器。活代候。下。候中。作。知縣及び上。て
欺く。校者。と。畢竟。苛沃飛田。若。甚。道。を。と。令。中。農人。と。目。負。り。の

可成

あつん連在下彼地へ下らばぬのちくふ綱ひえり堂の狸ありと後笑つて
 言けし井六國内をさす支在下昔も此より入るさうか刀銃へその由と云い
 て使ふ足下ゆりく紙らるる。期と推して輩後太開いと易き使ふる。
 然るもその後知縣の上ふまごまの痺と為ふ使へるさすご小辨一あからん
 針らひ言えとのふよつて彼兩人主君正光おれ此と云いおれ右の左の
 よれ針らへ下とあるお依て輩後太の旅の調度と魏めくゆまて整へて
 花浴と出てまをうぬをの陸海の領地ある所佐倉の郷へ着き。知縣支個小面
 會ひ。輩余と述く是より入在下成故を供してるの指揮とるすべし足下
 等も支小陸がひて針らへ上よの推柄不快とと思ひ。君命あるまはる是れも
 りぬと回答へる輩後太の土地の容もこの郷の酋長といふ誰よりそとその居ら

逸とて懐小記。依西個小らち對ひ是まの次才足下等が後鏡とて我ひ
 針らふ輩本の人を地味法くと此より入る理と推し。和言ふ針らへ下も。あつん
 雜へる。権威とあつて。若も下。然も下も。郷中にて我れと云
 老分といひ。奉て教ひ。井後重正。一個と召。輩後太。とて。活ると。此
 此の。調達。此の。と。回答。世の。業。引。氣。ひ。く。は。と。小。面。あ。と。て。我。ひ。返。さ。は。
 一。あ。日。と。行。る。あ。つ。の。ま。ま。若。者。の。い。ふ。及。む。は。彼。忠。務。上。虎。次。身。心。と。我。れ。等。と。て。出
 来。らん。ま。下。此。方。で。い。え。ん。の。は。彼。等。重。正。命。小。背。き。上。と。我。れ。の。い。ふ。茶。切。の。外。の。身
 怪。る。り。こ。ま。の。一。郷。會。召。捕。て。鞠。同。と。も。ま。け。と。と。然。も。て。の。痺。の。後。も。且。上。の。會
 義。悲。不。り。こ。ま。の。責。を。承。つ。一。個。と。召。後。重。正。の。老。と。の。捕。け。あ。つ。若。か。の。老。又。命。を
 一。日。由。早。く。家。小。伴。の。以。降。ら。ん。と。あ。つ。は。彼。等。の。い。ふ。商。後。と。命。の。あ。つ。の。課。役。と。出

せ。とまじりし上りかき此の仔細ありき。然るに百日月の月。渠をいふ
 降さ。といひ渡して人質を捕りて。速に調へんと必定あり。此後
 譚をいふ。昔は飛田の小勝と進め。其謀策究めて。若し一
 不應下。下すより。大蘭性物。これ私謀。軍後大の
 小。應下。下すより。大蘭性物。これ私謀。軍後大の
 と。調へて。考ふ。於て。問ふ。客情。亦。不。存。あり。又。右。せ。上。左。せ
 上。と。雜。人。們。の。分。け。は。い。と。嚴。重。き。准。信。と。り。身。も。不。成。り。以下。の。人。を。の
 後。和。縣。の。沙。法。中。身。責。候。と。り。甲。斐。の。と。今。の。大。に。優。怒。と。輝。海。の。と
 思ふ。亦。あり。ま。の。仲。と。渠。等。が。勅。神。と。ま。を。他。是。の。容。の。入。を。入。し。ま。し。り。上
 小。も。難。疑。と。り。懸。念。と。り。結。む。あり。然。る。に。這。回。に。活。路。を。大。蘭。董。後。大
 と。り。人。の。下。向。を。と。り。安。ら。ふ。と。計。り。あ。ら。う。と。計。り。あ。ら。う。と。安。ら。ふ。と。計。り。あ。ら。う。と。

和。縣。より。配。賦。奉。言。一。終。ぶ。と。あ。不。純。花。井。委。任。の。一。個。あ。る。べ。し。の
 文。帳。な。り。ま。は。後。書。做。し。て。使。せ。返。し。供。養。な。り。の。委。任。を。形。死。斯。の。や。の
 配。賦。を。得。て。ま。は。刻。と。移。さ。し。付。け。ば。さ。ら。な。り。と。吾。等。は。肯。あ。ら。ま。は。不。成。と
 疾。呼。べ。し。と。い。ふ。不。成。官。の。歩。を。使。不。成。の。と。云。遣。ま。は。患。症。の。時。と。齊。一
 喘。と。地。来。る。ま。は。米。の。の。矣。ま。り。と。困。室。へ。ま。個。と。う。ち。振。死。仔。細。と。り。の。地。を
 此。頃。用。命。と。ま。は。と。死。重。三。身。が。先。達。の。下。等。四。人。は。け。る。の。と。吾。の
 手。折。物。は。は。た。ま。ふ。不。這。回。の。吾。一。個。ま。は。と。死。儀。の。外。に。さ。ら。な。り。と。熟。考。ら。う。と。

まて。あかめこ。まあ、うら。たれぐら。あせ。あひ。このふさ。思召。その陸。言針ら。ひより。在下。昔。由。命。と。背。き。ひ。の。と。ひ。て。

破。て。あ。た。ま。の。海。く。小。網。海。せ。う。あ。ら。げ。何。ほ。ま。で。程。遠。き。ふ。ま。の。別。後。

あ。ろ。ろ。あ。ん。ま。ま。と。て。き。処。と。ま。あ。ま。ま。の。新。千。代。へ。又。小。女。乳。の。や。う。う。た。の。く。も。

軟。く。と。是。づ。の。世。の。別。と。も。あ。り。あ。が。り。小。梅。一。人。今。昔。く。と。袖。殺。坊。

番。と。た。公。の。飛。立。ま。う。り。ふ。あ。ん。ど。も。止。あ。も。故。を。中。小。い。う。秋。く。の。老。が。身。の。

程。さ。う。深。く。秋。う。も。も。あ。ん。と。嘆。め。て。も。流。る。涙。の。せ。た。あ。ん。を。尻。用。小。柱。

へ。ま。た。あ。ん。の。あ。る。ま。ま。の。入。り。の。ま。ま。の。輝。ま。の。海。の。頓。埒。ら。ん。首。の。坐。下。も。積。は。

け。う。小。秋。く。の。都。て。思。と。一。然。ら。げ。ま。ま。の。必。ま。も。勝。間。田。高。頂。の。去。小。ま。で。愁。訴。へ。

堅。く。止。む。下。の。り。の。水。如。の。推。察。の。と。然。ま。の。の。り。の。あ。ま。ま。の。あ。ま。ま。の。何。小。

早。と。秋。の。う。ん。と。喘。て。ま。あ。る。と。ま。あ。る。忠。義。於。千。代。ま。で。神。あ。り。の。見。送。は。

いか。ち。を。あ。せ。あ。ひ。枝。と。交。せ。る。橋。の。樹。小。強。ま。て。え。え。び。か。る。今。小。け。り。

是。ぞ。の。世。の。別。と。の。后。あ。せ。あ。ひ。合。け。の。程。さ。う。あ。ん。の。道。と。急。ぎ。と。自。

喃。時。の。頃。和。縣。の。門。を。へ。り。の。り。小。周。て。来。ま。う。と。と。り。の。門。成。る。雜。人。の。高。

三。個。と。ち。出。て。和。縣。相。公。先。利。より。俟。あ。ん。と。久。志。た。小。ま。ど。初。ま。う。り。遅。系。

甘。都。て。快。書。上。と。怖。ま。び。蔑。小。ま。る。根。性。の。あ。の。り。小。の。あ。ら。ま。と。う。と。

眼。圓。小。眸。の。り。の。言。下。あ。づ。ま。由。ま。が。程。あ。く。来。て。あ。く。彼。方。へ。糸。れ。と。あ。る。

小。ま。ま。あ。ん。の。物。と。び。い。え。び。目。礼。の。腰。と。屈。め。て。餘。と。例。由。案。内。の。り。て。

ある。公。問。竹。の。入。に。小。必。ま。び。常。小。碎。担。り。左。右。の。幕。う。ち。ま。の。靴。せ。外。

せ。長。柄。の。垂。陰。義。本。と。あ。く。建。連。結。歩。卒。小。頭。一。容。小。袴。の。裾。と。ま。ま。の。

右。の。十。多。左。の。早。索。と。ま。ま。の。程。う。け。さ。ま。の。松。園。の。竹。の。大。層。不。動。の。俵。小。

似し。まなな弟の公程ふ。その由を准儀する。這回花浴より下せしむ。太
 藪とやらんが威を下さんとて。おる備を倣せりある。人共は。此身小あ
 て。一点ごふも罪なれり。と。まごる。忠。と。あ。ん。と。公。と。定。め。切。之。を。引。開。入。を
 ば。ま。知。山。苛。沃。畦。里。飛。田。碓。平。床。机。小。持。下。左。右。小。雜。人。跨。あ。る。か。と。ま。ご
 視。より。畦。里。の。声。う。け。這。回。花。浴。より。使。と。て。太。藪。葦。後。太。刀。秘。下。向。あ。り。
 かの阿佐倉の酋長も。汝小所用の旨あるより。召呼き。祈あり。被。処。余。れ
 と。指。さ。し。示。さ。せ。白。洲。へ。お。け。バ。示。さ。ふ。も。殺。の。事。卒。小。取。も。前。後。左。右。と。成。せ
 り。あ。の。く。早。索。十。子。と。持。儀。あ。の。極。械。或。以。の。持。同。器。基。ま。く。も。並。べ。置
 け。その中央の葦後太威儀。刷。形。以。坐。と。下。ま。下。司。と。申。帳。と。控。え。或。以。の。前。お
 祝。と。指。さ。し。白。紙。と。手。と。持。副。て。紅。緑。せん。と。と。構。え。る。その。容。い。と。も。威。重。なる。は

罪ありぬ。身も何となく。心冷る心地にて。思ひを膝中。戮。懐。け。り。お。て。去。去
 衆。の。ま。知。山。苛。沃。下。僕。の。阿。佐。倉。の。郷。花。井。方。方。あ。の。ふ。い。と。い。ひ。顔。と。砂
 利。小。埋。めて。命。と。俟。小。葦。後。太。威。儀。小。把。て。形。を。改。め。這。回。小。領。主。と。成。命
 あり。裸。後。と。言。い。充。る。如。汝。と。と。堅。く。拒。み。半。小。の。足。ら。ぬ。英。金。を。差。出。し。生
 あり。裸。と。海。に入。と。ま。る。金。以。て。奇。怪。あ。る。汝。の。郷。の。酋。長。と。て。土。民。あ。ら。う。由。乃。の
 なる。小。領。主。と。父。と。し。民。と。不。と。以。然。ま。の。上。下。和。睦。を。七。難。難。疾。病。を。相。援。く
 こ。ま。先。王。の。法。則。あり。あ。る。小。近。曾。領。主。の。依。用。さ。し。ま。由。小。軍。役。の。結。士。小。給
 ま。る。小。使。と。り。と。り。て。汝。等。小。課。役。を。充。つ。ま。ご。ま。り。表。て。承。恩。の。辱。多。し。と。感。謝
 あり。収。む。べ。き。若。う。と。左。右。小。律。規。せ。れ。磨。せ。の。公。を。全。く。引。刺。山。賊。と。し。小
 出。命。と。く。め。の。英。金。を。差。出。す。度。も。あ。ら。ま。た。小。於。て。の。御。意。得。の。あ。り。由。と。せ。せ。汝。の



可成るに世に...

...

於千代が
貞操
泰山の難よ
換らんとす

ちう花



出立

出立

出立

おちよ

既小其上。不。其。身。と。以。て。是。と。後。さ。び。自。身。も。財。と。出。ま。と。情。を。父。を。願。ま。お。
 律。と。關。せ。且。軍。收。の。債。へ。と。落。う。し。下。と。て。猶。老。小。長。下。家。と。言。田。と。と。秋。
 ま。る。条。を。一。さ。罪。科。あ。り。然。ま。ど。の。定。ま。ま。る。租。税。の。化。ま。る。課。及。ま。る。法。
 其。の。罪。と。不。犯。さ。ま。び。寛。仁。の。意。と。垂。ま。て。偏。小。用。途。の。辨。ま。る。と。肯。と。な。せ。
 宥。宥。の。也。沙。汰。汝。等。く。意。得。て。今。日。より。二。日。の。間。小。命。の。め。く。個。ひ。出。せ。世。に。
 言。一。派。さん。為。小。呼。出。し。う。多。う。と。辨。舌。水。の。流。ま。と。く。小。言。け。ま。
 妻。乃。弟。の。の。皮。果。て。命。の。科。さ。逐。一。小。畏。下。の。也。と。縁。て。日。知。縣。の。は。支。所。へ。
 秋。所。の。一。て。先。知。う。め。貴。郷。三。十。八。村。の。内。九。箇。村。の。小。早。の。屋。小。難。下。
 定。免。の。租。税。と。ま。小。收。め。ま。と。と。形。妻。者。及。び。千。系。の。右。孫。教。徒。と。加。へ。
 糧。と。勝。上。納。仰。關。と。あ。是。等。の。概。さ。と。あ。ぬ。小。程。の。あ。ま。る。這。回。の。課。及。

一向は免を願ふの他、受ふも限りのこと。初ての上の事、言ふ全く宵くの
 左理小妻、思ふに不為小及、が今の山林田高、生を休願の人、不法、一、洞達
 做、一、二千兩の是、言、が、身、の、皮、を、製、ま、る、後、の、仇、家、を、の、忘、ま、て、才、免、に。
 一。実。小。上。之。の。重。さ。と。畏。と。存。か。ず。強。不。為。る。猶。老。小。長。下。家。と。言。田。
 と。開。ハ。何。者。の。徳。と。云。信。ト。あ。人。の。心。を。家。小。や。逆。あ。た。と。あ。て。り。と。の。え。せ。の。教。以。筆。
 及。太。の。膝。と。と。座。と。て。破。と。白。眼。汝。者。老。毛。に。ま。る。洞。と。と。吾。君。の。目。代。と。と。
 地。下。向。一。詮。後。汝。遂。る。その。任。小。あ。る。な。く。土地。の。厚。薄。ま。る。汝。等。が。
 一。も。知。ら。ぬ。と。あ。る。ん。や。戸。毎。の。匹。史。細。民。の。租。着。の。業。さ。又。知。つ。て。上。洞。達。と。
 有。餘。と。圖。つ。て。初。の。め。く。小。結。ま。と。も。知。ら。ぬ。と。あ。る。と。と。後。作。て。律。と。画。傳。と。と。
 んと。ま。る。你。が。奸。佞。憎。む。小。信。ま。る。七十。餘。歳。の。古。狸。二。寸。不。乱。の。舌。と。揮。つ。て。款。

此と申す敷むらまんや。と公問所申動揺なうの声うまて叱まをさども申す
 来のへ更不勤せは且くありて是れ存申まざる命せ這へ下僕と向ふ結
 するの証言ありん下僕死すの老あさとも古くの郷の長言はしる毎の分
 限りて言得て所有存をさぞ知まは。這回へ渠等も割合に重なる老四五
 輩あて。結人の代言も苦勞の做りぬ。元未修成のある族也。佐けあさて吾等の
 心と死す直と碎さて。何の益うひも。史書のよき道理せりて。奈あむの明白
 ある。且その君の父内て民の事と命をる如くその理柄然りま。也何ある
 まて。除役ありき。子を若くその父。君が府庫を富さんと做りぬ。あふ
 味ある。下僕あつて。解さ。願ふ。解分。解をて。其一人と結らして。軍
 足太い。いより多く。面を敷う。長くあ。要はあり。がら。老甚不。除役た。

兼て。て。屈服。を。を。者。ふ。あ。ひ。を。ま。去。共。引。捕。へ。て。飯。の。因。獄。撃。ご。あ。け。と
 い。より。早く。公。治。ご。と。前。後。左。右。と。取。捨。難。人。索。は。挂。法。と。是。と。楸。へ。宙。
 拘。を。引。立。せ。美。方。衆。の。後。は。う。斯。あ。へ。と。是。情。の。身。多。縲。絙。ふ。あ。い。ね
 と。取。所。あ。結。句。安。一。と。思。ひ。一。間。の。裡。一。押。拵。ら。ま。眼。と。圖。て。史。と。う。半
 句。も。物。い。え。は。身。動。さ。も。せ。は。自。若。う。と。さ。の。て。教。け。る。容。も。な。是。と。成。ま。る
 七。八。個。の。元。未。和。縣。の。下。収。申。あ。り。ま。う。ま。の。郷。より。史。沒。小。と。ま。を。下。働。と。ま。る。
 あり。史。著。の。常。小。受。存。を。神。の。め。く。も。教。ひ。分。今。か。く。陰。囚。の。身。と。あ。り。と。
 慢。小。款。と。て。年。老。の。害。さ。も。然。ら。と。察。り。や。火。を。そ。の。壁。に。刺。刺。お。ま。酒
 瓶。と。い。ふ。身。の。湯。湯。と。蒸。して。は。と。俸。め。布。小。累。と。之。密。小。後。を。是。小。澤。舟。の
 凍。ゆ。て。凌。ぎ。の。へ。と。赤。心。の。看。え。て。拵。に。志。ま。る。衆。の。懐。く。謝。罪。あ。り。て

ざる者あつて。佩せし刃の鈍くとも。必脱し利劔として切拂ひて。佐け出んとす。其の
 後、いよいよ。いと。と。史書昔の。屢息。以て。足下。が。勇気。今。お。指。ぬ。を。際。う。く。に。在。り。て。
 下。由。勇。に。進。む。の。ゆ。い。あ。ま。と。ま。に。通。い。て。沈。吟。す。る。り。ま。は。ち。の。不。可。な。ま。の。り。て。
 牙。一。に。怒。怒。何。ご。な。り。と。其。の。由。言。遠。き。ま。は。る。教。示。さ。る。牙。二。の。足。下。に。在。り。て。
 下。今。と。鶴。毛。の。輝。を。お。比。心。と。金。鉄。の。重。さ。を。措。と。佩。せ。刀。三。尺。お。え。だ。え。未。劔。
 法。無。難。あ。る。と。難。人。お。も。せ。よ。救。十。人。お。取。圍。も。も。も。る。あ。る。く。み。志。の。致。し。て。功。あ。
 らん。と。言。ふ。ま。あ。し。三。尺。の。刀。を。握。り。て。い。り。て。救。ひ。出。し。と。も。願。ひ。の。権。争。を。致。せ。
 忽。ち。死。亡。の。災。ひ。あ。る。ん。か。ま。ど。の。情。命。不。存。の。心。苦。し。を。不。為。あ。る。が。は。い。又。の。命。お。
 使。ひ。ま。ら。み。ま。り。小。目。を。通。し。て。依。の。巧。更。と。あ。ま。若。下。絶。急。の。に。ま。ま。ま。の。あ。り。ま。は。
 今。今。宵。の。引。取。んと。理。を。せ。せ。と。忠。告。の。に。罷。早。す。小。公。早。す。と。彼。方。と。白。

眼。足。踏。あ。る。再。回。三。面。は。達。して。ま。ま。ま。ま。容。お。り。と。え。け。と。ま。ま。官。の。心。お。感。
 なる。の。う。り。ん。に。あ。ら。う。と。ま。あ。あ。の。は。は。の。障。り。あ。り。ま。ま。帰。ら。ん。と。押。さ。て。
 提。灯。照。ら。し。ま。あ。る。忠。告。の。や。怒。り。と。収。め。万。一。の。理。ま。の。禪。ら。し。下。と。左。
 よ。別。と。ま。ま。け。り。ま。ま。官。の。家。お。り。と。帰。り。て。也。此。の。う。り。於。下。代。お。信。を。お。か。し。
 代。い。い。と。囁。か。れ。り。と。こ。の。怒。襟。在。す。ら。も。今。更。珍。の。あ。ら。ま。と。と。右。條。掛。り。て。
 性。あ。る。の。迹。お。殘。り。て。秋。く。より。遠。お。信。を。氣。い。ま。さ。る。と。ま。ま。之。評。め。の。の。秋。に。死。
 社。の。い。ま。と。氣。と。輝。邊。一。る。悲。秋。の。洞。お。袖。も。打。わ。下。か。く。て。翌。日。忠。告。必。下。虎。
 次。身。重。き。部。も。と。備。澤。の。六。七。束。及。び。各。の。老。あ。ひ。く。小。見。を。受。つ。け。ら。し。り。竹。葉。
 舍。存。せ。よ。左。せ。よ。と。の。評。議。の。あ。ら。る。ま。と。一。決。せ。よ。ま。ま。の。深。く。必。ひ。を。致。し。
 只。當。又。の。命。お。任。に。動。静。を。觀。る。お。も。さ。る。と。人。今。お。も。し。示。し。ま。さ。る。後。六。七。日。

おもひに思ひて少の沙汰あり。是必末の事なるが愁訴を候小極
 まる。さよに涙を流す。世への行ありとも。黄金洞へおの放りあり
 小初子の御室の伊勢の松坂の商人小極一二人の御初は美濃の如納の
 歌長小極もさよに此表親を送りていませ。取に中あり。氣ど兩個は為る程
 父の折塵知せざる小彼処へい。禪室は懐く。腰と澤さる。さよの
 目下面をけり。さよの御計端の御族より。御憑りあり。然りせば。と。禪室小
 禪らひ。忠告あり。是と。若暴小一夜。促装して。供とも。俱さ。二人。伊勢路
 と。外へ。さよ。出たり。

忠勇阿佐倉日記第二編卷之四終

